

地域包括ケアネットワーク No.93

最近の児島地区での地域包括ケアシステムの取り組み

児島医師会会長 田嶋 憲一

児島地区では、「命のバトン」や認知症連携パスの「健康パスポート」等様々な連携の道具を作り上げ、より具体的に地域の連携者が目に見える形として地域包括ケアシステム作りを行ってきました。ここ最近では、地域でも防災の意識が高まり、最近では防災という角度から地域を見直してまいりました。

児島地区地域ケア会議では、3年前から「防災」テーマとし、まず地域の土砂災害特別警戒区域を岡山県のホームページからピックアップして、小学校区ごとに確認をいたしました。地域住民からは、こんな所が特別警戒区域なんて知らなかったと言う方も多く、知っていてもまったく気にしていない方がほとんどでした。しかし、最近の大雨でがけ崩れを起こしているのは、全てこの特別警戒区域であり、がけ崩れをあまり気にしていなかった児島地区としては、早めに避難しなくてはいけない該当地区の情報を共有出来たことは大きな成果であったと考えています。

児島地区では、防災の情報発信から、地域での防災の取り組みが始まり、この具体的な目的を持った人のつながりが地域包括ケアシステム作りの足掛かりの一つになりました。そして2年前に児島地域で「マイタイムライン」作成を目標とし、ケア会議を展開してまいりました。自分自身の「マイタイムライン」を作成していく過程で、

- ①自分の住んでいる所の災害リスクを認識できる。
- ②避難するタイミングが分かる。
- ③地域でのコミュニケーションのきっかけになる。
- ④避難する時の持って行く物の準備ができる。
- ⑤避難した後の出来事を具体的に想像できるようになる。
- ⑥避難場所で便利な物の情報共有ができる。
- ⑦孤立している人を見つけ出せる。

等の意見が出て、各小学校区での小地域ケア会議を医師会の指導の下、各地域の高齢者支援センターがとりまとめ、民生委員、愛育委員、社会福祉協議会、婦人会、栄養委員、ケアマネジャー、薬剤師、歯科医師等の協力を得て一年かけて宣伝し、実際にワーキンググループも何度か開き、地域を刺激し合い、防災の啓発活動を行ってきました。

昨年からは、「地域で孤立している方をどう避難させるのか？」という事で話し合いが続けられ、個人情報であることに十分な注意を払いながら、訪問看護とケアマネも情報を共有して頂き、避難に手助けが要る方の見つけ出しに成功しました。ケアマネ、訪問看護の個別支援計画がそのまま個別避難計画に応用でき、一定の成果を得る事が出来ました。

今年の3月には、住民からのさらなる要望と地域の連携力のおかげで「児島地区の防災」という演題で倉敷市危機管理室の方と香川大学から講師を迎え、講演会も開催されました。児島地区の住民、多職種の方、地域のリーダーが中心となり、行政と大学を巻き込む形で、講演会ができたことも医師会としての仕事ができたと感じました。

地域包括ケアシステムは、トップダウンではなく、支援を必要としている人の情報収集から、その人に必要とされる連携を考えることが大切ですが、それに気が付くための地域の見守り体制の充実が大切だと思います。防災の連携をやって見せ、教えて、知らせてあげ、そして自分たちでやって頂いて初めて地域は育てていくのだと思いました。

そして、実際の活動の中で感じた事は、地域にはリーダーとなる有能な方が沢山居られると言うことです。その方々を発見していくことも大切なことだと感じました。これからもこの分野は広がりを見せると考えています。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。